



## サウジアラビア：ムハンマド・ナーイフ内相の副皇太子任命

1月23日、サルマーン国王は人事に関する勅令6本を発出した。概要は以下のとおり。

- ・副皇太子・第二副首相・内相　ムハンマド・ナーイフ・アブドゥルアジーズ・アール=サウード（内相）
- ・国防相・国務相・王宮府長官・国王特別顧問　ムハンマド・サルマーン・アブドゥルアジーズ・アール=サウード（皇太子府長官・皇太子特別顧問）
- ・皇太子府長官（閣僚級）　ハマド・アブドゥルアジーズ・スワイリム（皇太子府副長官）
- ・宮廷警備隊司令官代行　ハマド・ムハンマド・ウーハリ
- ・免職　ハーリド・アブドゥルアジーズ・トゥワイジリー（王宮府長官・国王特別顧問・宮廷警備隊司令官）

### 評価

ムクリン皇太子が初代国王の末子であることから、その次の後継者候補は初代国王の孫にあたる第3世代の中から選出されることは規定路線であったが、今回ムハンマド・ナーイフが副皇太子に選ばれたことで、第3世代が王位継承のラインに初めて乗ることになった。ムハンマド・ナーイフ内相は1959年8月30日生まれ（55歳）。父親のナーイフはサルマーン国王の同腹の兄で有力王族「ステイリ・セブン」の一人として、1975年から内相を務め、2011年には皇太子に任命されたが、2012年6月に逝去した。ムハンマド・ナーイフは父の補佐としてテロ対策などで実績を上げ、1999年に内務省次官、2012年11月には内相に就任していた。

新たに国防相に任命されたムハンマド・サルマーンは、サルマーン国王の息子である。1980年生まれと報じられており、皇太子府長官・皇太子特別顧問として父サルマーンの政務活動を補佐していたが、まだ若く、行政の手腕は未知数である。これまで非王族が占めていた王宮府長官も兼任することになり、新国王の側近として大きな地位を得ることになった。

ムハンマド・ナーイフの副皇太子任命は、有力王族の諮問機関である「忠誠委員会」の指名を得て決定されたものである。しかしながら、これは、彼より年長の第3世代で次期後継者候補とされていたムトイブ国家警備隊相（アブドゥッラー前国王の息子）が王位継承のラインから外れたことを意味する。また、サルマーン国王が息子のムハンマドに大きな権限を与えたことは、将来の国王候補として養成したいという思惑が見えよう。王族間の権力闘争は表面化していないものの、「ステイリ・セブン」の勢力拡大に王族内で反発が生じる可能性もある。

（村上研究員）

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

◎各種情報、お問い合わせは中東調査会 HP をご覧ください。URL : <http://www.meij.or.jp/>